

教育研究業績書

2020年 5月 1日

氏名 馬場 拓也

研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
教育学		教科教育学（美術）	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項			
事 項		年月日	概 要
1 教育方法の実践例 1)「幼児造形Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の学生教育指導（2019年度入学生より「子どもと造形Ⅰ・Ⅱ」に講座名変更） 2)「保育内容表現Ⅰ」の学生教育指導（2019年度入学生より「領域指導法（表現Ⅰ）」に講座名変更） 3)「社会福祉学特別演習Ⅰ・Ⅱ」の学生教育指導		2017年4月～現在 2017年4月～現在 2017年4月～現在	造形表現の基礎的な素材や用具、技法を学ぶことで、保育現場で必要とされる表現における実践力を指導した。 保育所保育指針、幼稚園教育要領を踏まえ、保育者として必要な造形理論や知識、技能の基礎を指導した。 学生がより専門的な知識や技術を深めるための選択性の授業（ゼミ）である。これまで学んできた造形的知識や技能を、社会とのかかわりを持って制作、発信していくことで、表現のおもしろさを体験的に学べるよう指導した。 2018年「保育者の卵が創る34冊の絵本展」開催 2018年「子どもアート万博in旧東中音更小学校」開催 2019年「虫類ナウマン全道そり大会」参加
2 作成した教科書，教材 1) 木製イスのキット 2) 木工作レシビ°		2017年～現在3点 2015年～現在13点	簡単にイス作りに挑戦できる教材 木を使用した工作物
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
4 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 講師：制作 「鉛筆立て」 2) 講師：制作 「枝でお絵かき体験」 3) 講師：制作 「木でスタンプ」 4) 講師：制作 「りんごの木のワークショップ」 5) 講師：制作 「木工ロボ」 6) 講師：制作 「りんごの木のワークショップ」		2014年 4月 2014年 7月 2015年 7月 2016年10月 2017年 7月 2017年 8月	弘前子どもアート万博 弘前アートプロジェクト 弘前アートプロジェクト 技術教育研究所 音更町・帯広大谷短期大学共同生涯学習前期プログラム〇〇JCオープンカレッジ〔道民カレッジ連携講座〕 技術教育研究所

事 項	年月日	概 要
7) 講師：制作 「ボックスアート」	2017年 9月	帯広大谷短期大学地域連携推進センター生涯学習室帯広サテライト教室「あおぞら」(道民カレッジ連携講座)
8) 講師：制作 「楽器作り」	2017年10月	木育×音楽プロジェクト
9) 講師：制作 「親子木工教室：椅子作り」	2017年12月	音更町教育委員会生涯学習課
1 0) アドバイザー 未利用材活用プロジェクト	2018年 4月	池田町産業振興課委託
1 1) 講師：制作 「親子木工教室：椅子作り」	2018年 7月	音更町教育委員会生涯学習課
1 2) 講師：制作 「りんごの木のワークショップ」	2018年 8月	技術教育研究所
1 3) 講師：制作 「木のキーホルダー作り」	2018年 9月	音更町・帯広大谷短期大学共同生涯学習前期プログラム〇〇JCオープンカレッジ〔道民カレッジ連携講座〕
1 4) 講師：制作 「オリジナルポストカード作り」	2018年11月	帯広大谷短期大学地域連携推進センター生涯学習室帯広サテライト教室「あおぞら」(道民カレッジ連携講座)
1 5) 講師：ゲストスピーカー 北海道の木育について	2019年 3月	木育とかち総会
1 6) 講師：制作 「オリジナルTシャツ作り」	2019年 7月	音更町・帯広大谷短期大学共同生涯学習前期プログラム〇〇JCオープンカレッジ〔道民カレッジ連携講座〕
1 7) アドバイザー 炭窯リノベーションプロジェクト	2019年 8月	池田町産業振興課委託
1 8) 講師：制作 「親子木工教室：椅子作り」	2019年 8月	音更町教育委員会生涯学習課
1 9) 講師：講義 表現と環境について	2019年 8月	北海道私立幼稚園協会教員免許更新講習
2 0) 講師：講義 木とものづくりについて	2019年 9月	帯広市保育問題研究会
2 1) 講師：講義 木の表現について	2019年10月	保育士会
2 2) 講師：講義 「21世紀は木の時代」というワードから読み解く「木との関わり方」	2019年11月	帯広大谷短期大学地域連携推進センター生涯学習室帯広サテライト教室「あおぞら」(道民カレッジ連携講座)
5 その他		
1) 審査員	2017年11月 ～2019年	第30回～第32回 中学生からのメッセージ 十勝地区大会
2) 審査員	2017年11月	ライオンズクラブ国際協会主催
3) 審査員	2018年11月	地区の国際平和ポスター・コンテスト特別審査員
4)		第31回中学生からのメッセージ 十勝地区大会

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 資格, 免許	2016年 3月 2016年 3月 2016年 3月 2016年 9月 2019年 2月	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状美術 高等学校教諭専修免許状美術 新制作協会 協友推挙 木育インストラクター
2 特許等	2016年11月	意匠登録第1565026号 組木玩具
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項	2016年 4月～ 2017年3月 2017年 4月～ 現在 2017年 4月～ 2018年 3月 2018年 4月～ 2019年3月 2019年 6月～	弘前市立津軽中学校教員（2 学年担任） 帯広大谷短期大学社会福祉科子ども福祉専攻助教 19年より専任講師 株式会社mizuiro アーティスト契約 株式会社遠藤木工 商品開発アドバイザー契約 森の輪プロジェクト代表 参加自治体：上士幌町、池田町、夕張市、広尾町 幕別町、音更町、清水町、当別町
5 その他		
1) 空間	2012年	弘前大学教育学部中庭デザイン
2) 空間	2012年	飲食店内装デザイン「福屋」
3) 製品 「akubi no zikan」ポストカード	2014年	販売店：m`s collectables（秋田県）
4) 製品 木製玩具「koroconte」	2015年12月	合同会社わにもっこ 販売：生産中止
5) 製品 「アヒルのカッティングボード」	2017年 4月	社会福祉法人RX組 販売：合同会社わにもっこ
6) 製品 「ごにごに」	2017年10月	teamGO-ON 販売：岡書
7) 製品 木製玩具「POTATOY」	2018年12月	teamGO-ON 販売：藤丸百貨店、HBCネットショップ 導入先：北海道庁、帯広市児童会館、帯広の森はぐくむ、帯広市福祉保健センター、帯広市子育て支援センター、釧路市遊学館、音更町役場、その他多数 ウッドデザイン賞受賞
8) 製品 木製玩具「retar」	2019年 9月	teamGO-ON

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 『森の輪物語 2019』: 監修	共	2020 年 1 月	森の輪プロジェクト	2019 年年度の森の輪プロジェクトの活動を まとめた一冊
(学術論文) 1 小学校木工における 接合法に関する一考察	単	2016年2月	学位論文(修士) 弘前大 学	木材の接合法であるつぎ手を小学校図画工 作科の題材に取り入れることで、形や色、 材料などを生かして計画を立てるなどして 表すことができる。また、用途を考えなが ら、昔からの伝統的な知識や技能を身に付 けさせ、造形的な能力を高めさせることが できるのではないだろうか。木や木材に対 してよさや美しさを感じ取ることができる ことを目指して、考察を行った。
2 廃材の利用と社会連携 に関する一考察—津軽地 区リンゴの木の間伐材を 利用して—	単	2017年3月	東北芸術文化学会誌「芸 術文化」第21号	青森県のリンゴ栽培についての歴史を振り 返り、リンゴ園経営者の長年の努力によっ て生まれた樹形を検証し、リンゴの樹の木 材としての可能性について考察を行った。 その中で、リンゴ栽培の作業過程で行われ る仕事に、リンゴの樹を伐採する間伐とい う作業があることがわかった。また、リン ゴの樹の樹形には、丸葉型と矮化型が存在 し、それぞれの樹形の特徴から検討を深め、 リンゴの樹を間伐材として用いる際には、 丸葉型の樹が適していることが分かった。
3 幼児・児童を対象とす る音楽と造形を融合した 総合的な表現活動に関す る研究—「木育」を取り 入れた楽器づくりと演奏 実践を通して—	共	2017年10月	帯広大谷短期大学地域 連携推進センター紀要 第4号	幼児・児童の表現領域における「音楽」と 「造形」を融合した総合的な表現活動に木 育の視点を取り入れ、その有効性を検証し たものである。結果、本活動が好意的に受 容され、幼児・児童の表現に対する意欲を 引き出す点で顕著に効果を示すことが明ら かとなった。木育を取り入れた総合的な表 現活動は造形領域のみならず、音楽領域の 学びにおいても有効であることが明らかと なり、今後の幼児教育・小学校教育におけ る展開の可能性が示唆された。著者：馬場 拓也、長崎結美
4 北海道による木育活動 に関する一考察—『子ど もの森の音楽会』を通し て—	単	2017年12月	東北芸術文化学会誌「芸 術文化」第22号(2017)	2017 年 9 月に行った「子どもの森の音楽会」 内の木育活動について振り返り、その内容 と成果、今後の課題について考察したもの である。その結果としては、木育活動でも、 木材を用い製作して完結する木工工作体験 ではなく、自身で製作したものを手にとって 実際に使用することで、通常の木工作体験 よりも深い木育の浸透と幅広い表現活動 (造形・音楽・身体表現)を経験できる機 会となったことがわかった。
5 青森県津軽地域におけ る木育活動に関する一考 察—『リンゴの木のワー クショップ』を通して—	単	2018年12月	東北芸術文化学会誌「芸 術文化」第23号(2018)	青森県弘前市で2016(平成 28)年 から 2018(平成 30)年現在まで年に1度実施して いる「りんごの木のワークショップ」(以 後、「りんごの WS」とする。)から地産材を 使用した木育活動について振り返り、その 内容と成果、今後の課題について考察した ものである。

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 6 地域性を意匠により付 加した木製玩具開発に関 する一考察—木育推進玩 具ポテトイの可能性につ いて—	単	2020年2月	東北芸術文化学会誌「芸 術文化」第24号	木育推進玩具POTATOYは2018年第82回新制 作展に発表し、2019年にグッドデザイン賞 を受賞したものである。それは北海道の広 大で豊かな大地が育む食の代表作物の一つ である、「じゃがいも」を多面体で模した 木製玩具である。その特徴として、【木育】 子育て世代とその子どもが「共に」「それ ぞれに」木に触れ、多様な遊びができる。 【食育】 幼少期から地域の農産物に親しみ を持つことができる。【保育】成長過程に おいて立体的に物体を捉え、「思考力」「創 造力」を発揮できる。著者は方法論的仮設 として、以下を設定する。「転がす」、「並 べる」、「積み上げる」等といった遊びを 通して地域社会と繋がりを持ち、創造性豊 かな感性を育むことができる。その有効性 を実践的に検証するとともに、第一に様々 な遊び方が生まれ、第二に年齢による遊び 方の特徴も現れたことを検証したもの。
7 「触って見る動く生き 物たち」展の成果と課題 —展示空間と材料の考察 を中心に—	共	2020年2月	東北芸術文化学会誌「芸 術文化」第24号	蝦名敦子・馬場拓也 2019年8月に行った展覧会「触って見る動く 生き物たち」展について、展示空間と材料 の問題を中心に成果と課題について検討し たもの。
(学会発表・会報) 1 自己の制作と材料—今 後の教材化に向けて—	単	2014年7月	東北芸術文化学会第20 回大会口頭発表 東北芸術文化学会会報 63号	これまでの卒業研究での成果を振り返り、 特に使用された技法について紹介し、それ を図画工作科の教材化に向けてどのような 可能性があるかを検討した。最終的には、 題材例を試作したものを紹介した。(pp:11 ～12)
2 木材接合技法を用いた 教材提案—だぼつぎ編—	単	2015年2月	東北芸術文化学会第67 回研究例会口頭発表 東北芸術文化学会会報 64号	木材接合技法であるだぼつぎを用いた教材 を開発し、2015年1月に弘前市で行われた 「子どもアート万博」でのワークショップ にてその教材を使用し実施した。結果、使 用用具や組み立てが幼児や低・中学年の子 どもにとっては、困難であることがわかっ た。(pp:6)
3 小学校木工における 接合法に関する一考察— 組みつぎ・だぼつぎ—	単	2016年2月	東北芸術文化学会第69 回研究例会口頭発表 東北芸術文化学会会報 67号	木材接合技法である組みつぎ・だぼつぎを 幼児・児童でも表現できるような題材を実 践したもの。木材の接合法である「つぎ手」 を小学校図画工作科の題材に具体的に取り 入れることは可能であり、題材の工夫によ り、子どもは木に親しんで制作できるとわ かった。(pp:4～5)
4 県産材活用の可能性と ワークショップの実践例 ～林檎の木～	単	2016年11月	東北芸術文化学会第70 回研究例会口頭発表 東北芸術文化学会会報 69号	青森県の林檎農家で選定された林檎の木を 使用して、小学校図画工作科・工作や中学 校技術科の木材加工や美術科の工芸等の内 容において題材の材料として活用できない かと考察し、材料として安定した供給が可 能であるかを検討したものである。(pp:4 ～5)

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学会発表・会報) 5 自己の作品を振り返って―第80回記念新制作展―	単	2017年3月	東北芸術文化学会第71回研究例会口頭発表 東北芸術文化学会会報70号	平成28年9月に国立新美術館で開催された第80回記念新制作展（SD部門）に出品した作品『線と点と円』（図1）と、翌年の平成29年2月に建築会館ギャラリーにて開催された新制作受賞作家展（SD部門）に出品した作品『黒と白』（図2）を取り上げ、改めて自身の作品を振り返ることで、今後の造形的な思考や捉え方を考察したものである。（pp:3～4）
6 木育イベント「子どもの森の音楽会」を振り返って	単	2018年3月	東北芸術文化学会第74回研究例会口頭発表 東北芸術文化学会会報73号	2017年9月に行った「子どもの森の音楽会」内の木育活動について振り返り、その内容と成果、今後の課題について考察したものである。その結果としては、木育活動でも、木材を用い製作して完結する木工作体験ではなく、自身で製作したものを手にとって実際に使用することで、通常の木工作体験よりも深い木育の浸透と幅広い表現活動（造形・音楽・身体表現）を経験できる機会となったことがわかった。
7 北海道の木育玩具の開発と課題	単	2019年3月	東北芸術文化学会第76回研究例会口頭発表	北海道の木育推進の課題に対するひとつのアプローチとして木製玩具の研究・開発より誕生した木育推進玩具【POTATOY：ポテトイ】（「ポテト（じゃがいも）」と「トイ（おもちゃ）」を合わせた造語である）を紹介し、導入施設やレンタル先の使用例の報告を行う。また、ユーザーの声から当玩具の魅力について述べるものとし、最後に今後の課題について言及した。
(作品) 1 「ともす」	単	2013年2月	ギャラリーデネガ	木材 1800w×1800d×2400h 照明
2 「AKUBI NO ZIKAN」シリーズ	単	2013年2月	ギャラリーデネガ	210h×170w イラスト
3 「ともす1/4」	単	2014年9月	新制作展 国立新美術館	木材 900w×900d×2400h 照明
4 「koroconte」	単	2015年8月	神戸ビエンナーレ 創作玩具国際コンペティション 入賞	木材 110w×110d×60h 木製玩具 2021年度版 文部科学省検定教科書 中学校『美術』に作品掲載（発行・開隆堂出版株式会社）
5 「点と線と円」	単	2016年9月	新制作展 国立新美術館 新作家賞 第80回記念特別展示室	木材 ガラス 900w×70d×1100h オブジェ

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(作品) 6 「黒と白」	単	2017年2月	新制作受賞作家展 建築会館ギャラリー 東京都田町	木材 塗装 2100w×210d×2000h オブジェ
7 「woodle」	単	2017年6月	新制作 北海道ゆかりの 作家たち展 本郷新記念札幌彫刻美 術館	木屑 パイプ 500w×430d×720h オブジェ
8 「forest man」 シリー ズ	単	2017年8月	「One for one」展：個 展 Gallery store globe 北海道帯広市	アクリル 240h×200w 25点 イラスト
9 「forest man」 シリー ズ	単	2017年11月	100人のおやさいクレヨ ン画展 青森県立美術館	クレヨン 240h×200w 5点 イラスト 招待作家
1 0 「指向」	単	2017年12月	ファインアート・ユニバ ーシアード U-35展 茨城県つくば美術館	木材 900w×900d×900h オブジェ 推薦出品
1 1 「らくがきHOUSE」	単	2018年7月	GANKE FES 北海道新得町	木材 アクリル 3600w×3600d×3000h 野外オブジェ
1 2 「POTATOY」	単	2018年9月	新制作展 国立新美術館	木材 木製玩具 ウッドデザイン賞受賞
1 3 「はなげ」 シリーズ	単	2019年6月	「大は小を兼ねる小は 大を成す」展：個展 Gallery rural 青森県西目屋村	アクリル トートバック 11点 インスタレーション
1 3 「GANKEの方程式」	単	2019年7月	GANKE FES 北海道新得町	スタイルフォーム 紙 野外オブジェ
1 4 「HG-light」	単	2019年9月	新制作展 国立新美術館	木材 ライト 1150w×1400h×80d 間接照明